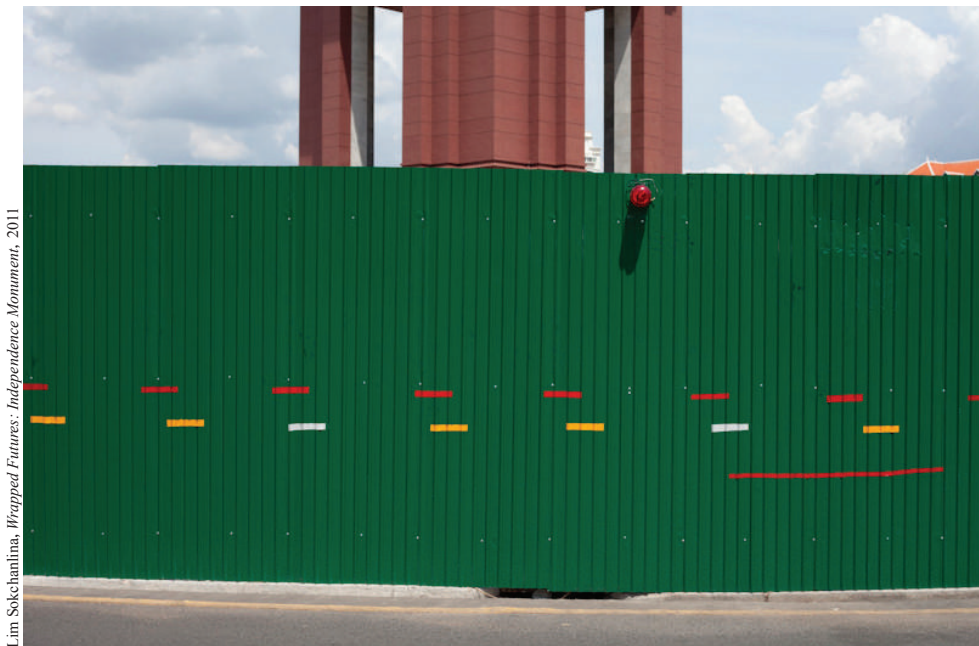


Count the Waves ~~~~~



~~~~~ 見えないものをつなぐ

英題 *Count the Waves – Visualizing Invisibility*

会期 2019年3月21日(木・祝)~4月7日(日)  
10:00~18:00 (入場は閉館の30分前まで) | 月曜休館 | 入場無料

会場 東京藝術大学大学美術館 陳列館  
〒110-8714 東京都台東区 上野公園 12-8 東京藝術大学 美術学部側構内

## 出展作家

|                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| 稲垣美侑                      | リム・ソクチャンリナ (Lim Sokchanlina) |
| 貝山伊文紀                     | 多和田有希                        |
| ディナ・ガディア (Dina Gadia)     | 西村健太                         |
| リー・キット (Lee Kit)          | 平川祐樹                         |
| 北林加奈子                     | 布施琳太郎                        |
| ナイル・ケティング (Nile Koetting) | BIEN                         |
| 志賀理江子                     | LY                           |

主催： 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻  
共催： 一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン  
特別協賛： The Chain Museum  
助成： 藝大フレンズ  
協力： CLEAR GALLERY TOKYO、飛驒産業株式会社

監修： 長谷川祐子 (東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授)  
共同キュレーター： ソフィー・アルニ、渋谷かるな、隅本晋太郎、張洋宇、山縣青矢  
(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻修士課程学生)

# 企画概要

本展は、2016年に設立された東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科(GA)アートプロデュース専攻において、キュレーション領域の学生5名が主体となり企画運営する展覧会です。刻々と変化し続ける現代の多様な価値観を、学生それぞれの視点から新たな文脈として提示し、また、鑑賞者からの様々な反応を得て、更なる学びへつなげることを目的としています。

今年度は、「Count the Waves - 見えないものをつなぐ」と題し、「不可視性」をテーマに国内外のアーティストおよびデザイナー14名を紹介します。また、本年度の学生はアメリカ・スイス・中国の出身者を含むグローバルな構成となっており、ウェブ情報を含む全ての出版物の多言語表記など、より幅広いオーディエンスへ働きかけることを目指します。

# コンセプト

今日、私たちは相互に意思疎通を取るために、**デジタル・コミュニケーション**(例えばSNSなど)に大きく依存しています。その結果、国境を超えた交流はさらに増加し、グローバル化の流れはより大きなものとなりました。「**グローバル**」という言葉は様々な場面で用いられ、すでに通俗的なイメージとなり、私たちにとって目に見えない結びつきのように機能しています。しかし、その正確な定義は非常に曖昧なものです。つまり、私たちの「**つながり**」は、物理的にも概念的にも「**見えないもの**」によって成立しているといえます。

21世紀に入り、デジタル・コミュニケーションの基盤となった**インターネット**は、超可視性(hypervisibility)と匿名性を同時に生み出し、インターネットで閲覧できるものだけが存在する事象であるという錯覚を与えています。同時に、私たちの生活の中には、時間(過去や未来)、人の感情や意思、未だ人類が到達しえない未知などの「**見えないもの**」が常に存在しています。

本展では、「**見えないもの**」を現前化させる作品を取り上げ、不可視なものの痕跡を私たちがどのように認識しているのか(あるいは認識していると思いついでいるのか)を問いかけます。本展タイトルである「**Count the Waves**」とは、絶え間なく幾重にも重なり合いながら打ち寄せる波を数えることのように、それらの「**見えないもの**」を捉えようとする行為のメタファーです。そして、その問いに応答するため、「**見えないもの**」に展覧会を通して向き合うことで、現代社会に生きる人々と、人々を取り巻く環境との関係性に潜む不可視性と、**新たな「つながり」のかたち**を探求していきます。

## 出展作家 (計14名)

稲垣美侑  
1989年神奈川県生まれ、東京都在住

リム・ソクチャンリナ / Lim Sokchanlina  
1987年カンボジア生まれ、プノンペン在住

貝山伊文紀  
1979年千葉県生まれ、長野県在住

多和田有希  
1978年静岡県生まれ、神奈川県在住

ディナ・ガディア / Dina Gadia  
1986年フィリピン生まれ、マニラ在住

西村健太  
1988年佐賀県生まれ、東京都在住

北林加奈子  
1990年東京都生まれ、東京都在住

平川祐樹  
1983年愛知県生まれ、愛知県在住

リー・キット / Lee Kit  
1978年香港生まれ、台北拠点

布施琳太郎  
1994年東京都生まれ、東京都在住

ナイル・ケティング / Nile Koetting  
1989年神奈川県生まれ、ベルリン拠点

BIEN  
1993年東京都生まれ、東京都在住

志賀理江子  
1980年愛知県生まれ、宮城県在住

LY  
東京都生まれ、東京都在住



## 関連プログラム

### 内覧会&オープニング・レセプション

日時: 2019年3月20日(水)19:30 - 21:00

会場: 東京藝術大学大学美術館内大浦食堂

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8 東京藝術大学

美術学部側構内

入場無料・予約不要 (DJイベント有り)

### 会期中のイベント

会期中展示会場にて参加作家のトークと、共同キュレーターによるギャラリー・ツアーを予定(入場無料・予約不要)。詳細については決まり次第、東京藝術大学大学国際芸術創造研究科HPおよび本展の特設SNSにてお知らせします。

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 HP: [ga.geidai.ac.jp](http://ga.geidai.ac.jp)

本展覧会特設 Twitter: @gaapexhibition

本展覧会特設 Instagram: @gaexhibition

#CountTheWaves2019

## 作家略歴 (五十音順)

### 稲垣美侑 / Miyuki Inagaki

1989年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻油画に在籍。住まいや町並みの日々の変化を観察し、見る主体と世界との境界面、その現実性について問いかける絵画を制作。主なグループ展に「亀山トリエンナーレ2017」(岡田屋月の庭, 三重)、2018年「綴り まえがき」(株式会社ベリタス, 東京)など。2019年3月24日まで三重県立美術館にて開催中の「パラランドスケープ“風景”をめぐる想像力の現在」に参加中。



稲垣美侑

《所在 - 空き地 A vacant lot #1》

2018年

© Miyuki Inagaki, courtesy of the artist

### 貝山伊文紀 / Ibuki Kaiyama

1979年千葉県生まれ。長野県在住。東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻機能設計研究室修了。岐阜県高山市の飛驒産業株式会社デザイン室勤務。2012年、アトリエ灯を設立。枝に焦点をあて、新たな木の可能性を研究している。  
(製作：飛驒産業株式会社)



Photo by Masayuki Hayashi

### ディナ・ガディア / Dina Gadia

1986年フィリピン生まれ。マニラ在住。2006年マニラのファーイースタン大学美術学部広告専攻卒業。コラージュとペインティングにより、視覚と言語の関係性を問う作品を制作。主な個展に、2015年「Select The Right Bad Picture」(Clear Edition and Gallery, 東京)、2017年「Situation Amongst the Furnishings」(Silverlens, マニラ)、「Malady of Association」(Owen James Gallery, ニューヨーク)など。最近のグループ展に2018年「Tirada: 50 Years of Philippine Printmaking 1968-2018」(Cultural Center of the Philippines, マニラ)など。



Dina Gadia

《Word Handicap》

2015年

© Dina Gadia, courtesy of  
CLEAR GALLERY TOKYO

## 北林加奈子 / Kanako Kitabayashi

1990年東京都生まれ。2018年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。陶と糸、ウールなどのレディメイド素材を組み合わせることで、自然と人間との関係性を探求する彫刻やインスタレーションを発表している。主な個展に2017年「見える/見えない」(ギャラリーDiEGO, 東京)、「Kanako Kitabayashi Solo Exhibition」(Raus stenkärlsfabrik och konsthall, ヘルシンボリ)、2018年「クリテリオム94 北林加奈子」(水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城)など。



北林加奈子

《肌 - 2》

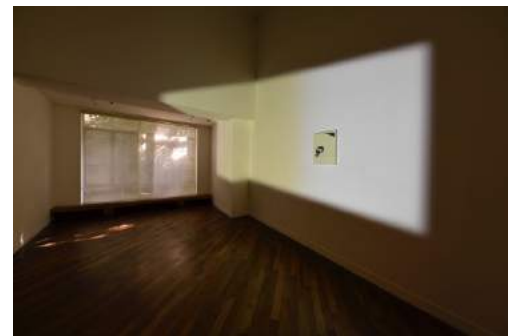
2017年

Photo by Rakutaro Ogiwara

© Kanako Kitabayashi, courtesy of the artist

## リー・キット / Lee Kit

1978年香港生まれ。2008年香港中文大学美術学部修士課程修了。台北を拠点にアジア、アメリカ、ヨーロッパの各地で滞在制作を行う。主な個展に2015年「The voice behind me」(資生堂ギャラリー, 東京)、2016年「A small sound in your head」(S.M.A.K., ゲント)、「Hold your breath, dance slowly」(Walker Art Center, ミネアポリス)、2017年「Not untitled」(シュウゴアーツ, 東京)、2018年「The Enormous Space」(OCAT Shenzhen, 深圳)、「僕らはもっと繊細だった」(原美術館, 東京)など。2013年ヴェネチアビエンナーレ香港代表。



Lee Kit

「We used to be more sensitive.」  
installation view at the Hara Museum  
2018年

Photo by Shigeo Muto

© Lee Kit, courtesy of the artist and ShugoArts

## ナイル・ケティンク / Nile Koetting

1989年神奈川県生まれ。2012年多摩美術大学卒業。「センシング(感覚、感知)」をテーマに、映像、パフォーマンス、インスタレーション、サウンドアートなど多様な形態の作品を発表。主な個展に2018年「All in One/Terra Mater」(Unit 110, ニューヨーク)など。主なグループ展に2016年「New Sensorium」(ZKM, カールスルーエ)、「六本木クロッシング 2016: 僕の身体、あなたの声」(森美術館, 東京)、「曖昧な関係」(メゾン・エルメス銀座, 東京)、2017年「7th Moscow International Biennale of Contemporary Art」(モスクワ)、2018年「Assembly (松本望睦とのコラボレーション)」(Somerset House, ロンドン)など。



Nile Koetting

「Whistler」  
installation view at Yamamoto Gendai  
2016年

© Nile Koetting, courtesy of the artist

## 志賀理江子 / Lieko Shiga

1980年愛知県生まれ。宮城県在住。2004年ロンドン大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート卒業。写真集『Lilly』と『CANARY』（ともに2007年）で第33回木村伊兵衛写真賞受賞。主な個展に2012年「螺旋海岸」（せんだいメディアテーク、宮城）、2017年「志賀理江子 ブラインドデート」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川）など。主なグループ展に「Ocean of Images: New Photography 2015」（MOMA, ニューヨーク）、2017年「Japanorama. A new vision on art since 1970」（Centre Pompidou-Metz, メス）など。2019年3月5日より東京都写真美術館にて個展「ヒューマン・スプリング」を開催。



志賀理江子  
《ブラインドデート》  
2009年  
© Lieko Shiga, courtesy of the artist

## リム・ソクチャンリナ / Lim Sokchanlina

1987年カンボジア生まれ。プノンペン在住。2010年プノンペンのノトン大学経済学部卒業。母国カンボジアの社会、政治、経済の変化を主題に、写真を中心にビデオやインスタレーション作品の制作も行う。主なグループ展に2017年「サンシャワー 東南アジアの現代美術展：1980年代から現在まで」（森美術館、東京）、2018年「Bangkok Art Biennale」（バンコク）、「Sydney Biennial」（シドニー）など。作品は森美術館、シンガポール美術館、チェンマイのMAIAMミュージアムなどに所蔵されている。



Lim Sokchanlina  
《Wrapped Futures: Independence Monument》  
2011年  
© Lim Sokchanlina, courtesy of the artist

## 多和田有希 / Yuki Tawada

1978年静岡県生まれ。東北大学農学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。自ら撮影した写真を消す（削る、燃やすなど）という行為を通し、都市や群衆の集合的無意識や個の意識変容をイメージとして湧出させる。主な個展に2018年「悪魔祓い、系統樹、神経の森」（G/P gallery, 東京）など。主なグループ展に2015年「5×3」（Kunstraum Düsseldorf, デュッセルドルフ）、2017年「カミナリとアート 光 / 電気 / 神さま」（群馬県立館林美術館、群馬）、2018年「写真都市展—ウィリアム・クラインと22世紀を生きる写真家たち—」（21\_21 DESIGN SIGHT, 東京）など。



多和田有希  
《I am in You》  
2018年  
© Yuki Tawada, courtesy of the artist

## 西村健太 / Kenta Nishimura

1988年佐賀県生まれ。東京都在住。2010年東京デザイナー学院卒業後、2011年美学校入学。主な個展に2014年「SUBLIMATE」(無人島プロダクション, 東京)。主なグループ展に2012年「TRANS ARTS TOKYO」(旧東京電機大学11号館, 東京)、2015年に「天才ハイスクール!!!! Genbutsu Over Dose」(キタコレビル, 東京)など。



西村健太  
《MONUMENT》  
2014年  
Photo by Kei Miyajima  
© Kenta Nishimura, courtesy of  
MUJIN-TO Production

## 平川祐樹 / Youki Hirakawa

1983年愛知県生まれ。メディア考古学的な視点を通して、場所や物質に宿る時間を即物的に呈示する映像を発表。物質の燃焼や蒸留・浄化といった錬金術的手法を使い、古い映画フィルムから銀を抽出し、フィルムの灰を平面と置き換える作品を制作。主な個展に2015年「Close Your Eyes」(Kunstlerhaus Bethanien, ベルリン)、2017年「The Better Way Back to the Soil」(Double Square Gallery, 台北)、2018年「映画になるまで 君よ高らかに歌へ」(ANDO GALLERY, 東京)など。グループ展に「あいちトリエンナーレ2013」(愛知)、「札幌国際芸術祭2014」(北海道)など。また上映歴に2019年「ロッテルダム国際映画祭」(ロッテルダム)など。



平川祐樹  
《Burning a Second》  
2016年  
© Yuki Hirakawa, courtesy of the artist

## 布施琳太郎 / Rintaro Fuse

1994年東京都生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻在籍。旧石器時代における洞窟壁画への調査をベースとし、デジタルテクノロジーにより、万物が相互に接続された世界における人間の認識の表象を試みるインスタレーションを多数発表。2014年より自身がキュレーションを担当したグループ展を開催。代表的なものに2016年「iphone mural (iPhoneの洞窟壁画)」(BLOCK HOUSE, 東京)、2018年「モデルルーム」(SNOW Contemporary, 東京)、「孤独の地図」(四谷未確認スタジオ, 東京)など。



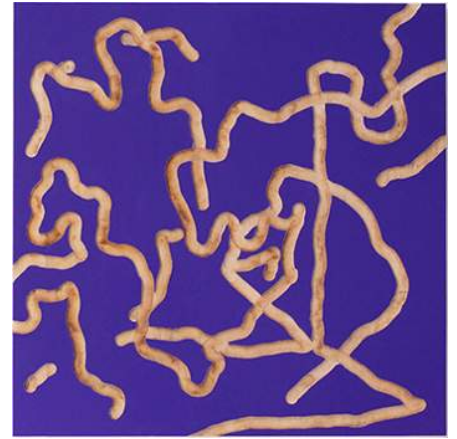
布施琳太郎  
《Retina Painting》  
2019年  
© Rintaro Fuse, courtesy of the artist

## 5名のキュレーター × 14名のアーティスト

Count the Waves - 見えないものをつなぐ #CountTheWaves2019

### BIEN

1993年東京都生まれ。ストリートカルチャーやアニメーション、フィギュアの表現から影響を受けたドーロイングによって抽象絵画やインスタレーションを制作。記号的な意味の解体と再構築を試みる。2018年、東京・BLOCKHOUSEにて個展「WOOZY WIZARD」を開催。主なグループ展に2017年「SIDECORE-路・線・図-」(Gallery TRAX, 山梨)、2017年「Reborn-Art Festival」(宮城)、2017年「新芸術祭2017: 150年の孤独」(福島)、2018年「理由なき反抗」(ワタリウム美術館, 東京)など。



BIEN

《Haunted Castle》

2018年

© BIEN, courtesy of the artist

### LY

東京都生まれ。ストリートアートから強い影響を受け、モノトーンの色彩によって、自身が訪れた街並みや、幼い頃から妄想していたランドスケープ(風景)を描く。画中には自身の心情を投影したモンスターが登場。東京を中心にアメリカ、フランス、タイ、マレーシアなど国内外で壁画を制作。主な個展に2016年「FAR FROM HOME」(CALM&PUNK GALLERY, 東京)、2018年「OUTSIDE, INSIDE,」(GALLERY TARGET, 東京)など。グループ展に「pop&street -AN ANNUAL 2018」(fort gallery, 東京)など。



LY

《THEY LOOK FOR LUV》

2018年

© LY, courtesy of the artist

プレスリリース お問い合わせ (広報担当: 山縣)

Tel: 050-5525-2725 Fax: 03-6846-8685 E-mail: gaexhibition2019@gmail.com



5名のキュレーター × 14名のアーティスト

Count the Waves - 見えないものをつなぐ #CountTheWaves2019

## 展覧会情報

展覧会名：Count the Waves - 見えないものをつなぐ

会期：2019年3月21日(木・祝) - 4月7日(日) [計18日間]

開館時間：10:00 - 18:00 (入場は閉館の30分前まで) [月曜休館]

会場：東京藝術大学大学美術館陳列館

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 東京藝術大学 美術学部側構内

入場料：無料

監修：長谷川祐子 (東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授)

共同キュレーター：ソフィー・アルニ、渋谷かるな、隅本晋太朗、張洋宇、山縣青矢  
(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻修士課程学生)

主催：東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻

共催：一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン

特別協賛：The Chain Museum

助成：藝大フレンズ

協力：CLEAR GALLERY TOKYO、飛驒産業株式会社

交通案内：

JR上野駅(公園口)、京成上野駅(正面口)、東京メトロ千代田線根津駅(一番出口)  
より徒歩10分、東京メトロ日比谷線・銀座線(7番出口より徒歩15分)、JR上野駅  
公園口から台東区循環バス「東西めぐりん」(東京藝術大学経由)で4分、停留所  
「東京藝術大学」下車(30分間隔)

※駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。



東京藝術大学大学美術館  
陳列館

広報お問い合わせ：

「Count the Waves - 見えないものをつなぐ」展 広報担当：山縣青矢

Tel: 050-5525-2725

Fax: 03-6846-8685

E-mail: gaexhibition2019@gmail.com

Twitter: @gaapexhibition

Instagram: @gaexhibition

#CountTheWaves2019

お問い合わせ：

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻キュレーション領域

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8 大学院国際芸術創造研究科教員室

Tel: 050-5525-2725 (担当：島田浩太朗、加藤杏奈)

Fax: 03-6846-8685

E-mail: gaexhibition2019@gmail.com

HP: <http://ga.geidai.ac.jp/>

プレスリリース お問い合わせ (広報担当：山縣)

Tel: 050-5525-2725 Fax: 03-6846-8685 E-mail: gaexhibition2019@gmail.com

5名のキュレーター × 14名のアーティスト

Count the Waves - 見えないものをつなぐ #CountTheWaves2019

## 広報用画像

以下の画像を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報担当までお申し込みください。

Email: gaexhibition2019@gmail.com (広報担当：山縣青矢)

### [使用条件]

- 広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。
  - アーカイヴのため、後日掲載誌（紙）、URLなどをお送りください。
- 以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いたします。



[1] リム・ソクチャンリナ Lim Sokchanlina  
《Wrapped Futures: Independence Monument》2011年  
© Lim Sokchanlina, courtesy of the artist



[2] ディナ・ガディア Dina Gadia  
《Blotch》2016年  
© Dina Gadia, courtesy of CLEAR GALLERY TOKYO

プレスリリース お問い合わせ (広報担当：山縣)

Tel: 050-5525-2725 Fax: 03-6846-8685 E-mail: gaexhibition2019@gmail.com